

## 令和3年度第3回白井市市民活動推進委員会（全体会）会議録

1. 開催日時 令和3年6月23日（火）午前10時00分～11時30分
2. 開催場所 白井市役所 本庁舎2階 災害対策室2・3
3. 出席者 関口宏聡委員、清水洋行委員、長島悟委員、近藤健司委員、  
川鍋正治委員、大田茂子委員、亀川香委員、黒木弘司委員（名簿順）
4. 欠席者 湯浅章吾委員、迫田妙子委員、篠崎慶子委員（名簿順）
5. 事務局 松岡課長、中原主査、高橋主事補
6. 傍聴者 なし（新型コロナウイルス感染症予防対策のため非公開）
7. 議 事
  - （1）令和3年度白井市市民団体活動支援補助金の審査結果について
  - （2）白井市市民団体活動支援補助金成果報告会について
  - （3）白井市市民団体活動支援補助金公開成果報告会（前年度採択団体）
  - （4）今後の委員会予定について

### 8. 会議概要

- （1）令和3年度白井市市民団体活動支援補助金の審査結果について

〔事務局説明〕

〔委員長〕 それでは、早速ですけれども、議事に入っていこうと思います。

まず、先日終わりました令和3年度の市民活動支援補助金の審査結果についてということで、御報告を事務局のほうからお願いします。この後、質疑を行います。

〔事務局〕 そうしましたら、皆様、資料の2をお出してください。補助金の審査に関わった委員さんと補助金の審査に関わっていない委員さんといらっしゃいますので、説明のほう若干細くなる部分はあるかと思いますが、お付き合いください。よろしくお願いたします。

こちらの資料は、審査委員さんのほうで審査をした結果、白井市長宛てに審査結果を報告した資料になります。現状は、この審査結果の報告によって、各団体さんの補助金のほうが採択されたというところまで進んでおります。

そうしましたら、1枚めくっていただいて、1ページをお開きください。令和3年度は、補助金の応募が全部で4団体ございました。

申請団体1、活動促進型というもの。こちらは、新しく市民活動を始めようという団体さん向けの補助金になっております。こちらについては、グリーンレンジャーという団体が1団体。

活動発展型。こちらについては、既に市民活動を行っており、現状の活動をさらに発展させるために補助金を受けたいという団体さん向けの補助金になっておりまして、こ

ちらについては、3団体の応募がございました。介護・認知症の家族と歩む会・白井、しろいワクワクひろば、白井健康元気村となっております。

審査については、5月19日に書類審査、5月28日にプレゼンテーション審査ということで、2日間かけて4団体を審査いたしました。

プレゼンテーションの概要については、5月28日に行ったのですけれども、1団体につき発表5分、質疑7分ということで、平等に時間のほうを割り振りまして審査を行いました。

続いて、2ページをお開きください。審査方法と手順となっております。

審査については、採点をしまして、その結果、上位からという形で、主な審査項目としましては、6項目。表にありますけれども、必要性、公益性、実現性、自立性、自発性、事業効果という6項目で審査をしまして、各5点。公益性と事業効果については、点数を2倍にしまして、10点の配点となっております。活動促進型については、事業効果の部分が採点項目から抜けまして、30点。活動発展型が40点という採点をしました。審査手順については、審査に関わった審査委員が、それぞれ各項目について点数をつけまして、順位付けをします。

本来であれば、応募団体が多い場合は、点数の高い順に補助金の採択が決まっていくのですけれども、今年度に関しては、各団体さんの補助金の申請額が市で用意した予算額より下回りましたので、各団体、この審査手順の2番ですね。採択基準点、こちらの点数、活動促進型が15点、活動発展型が24点。それぞれ50%、60%の得票があれば採択をされるということになりまして、今年度については、4団体ともこの基準点を超えました。

もう1枚めくっていただいて、3ページ目。審査結果ということで、活動促進型、グリーンレンジャー。こちらについては、条件付き採択。後ほど説明させていただきます。

活動発展型、上の2団体は通常どおり採択で、白井健康元気村については、条件付き採択となりました。

もう1枚めくっていただいて、4ページになります。各団体の審査結果の詳細ということで、御説明させていただきます。

まず、グリーンレンジャーですけれども、グリーンレンジャーさんは、こういった活動をされるかということ、市内の南山公園・法目川防災調節池、国道464号線沿道に繁茂する葛、雑木、笹竹等を伐採、除去し、景観の回復、維持、向上を図るということで応募をされました。

点数については記載のとおりで、各審査時に、団体さんにコメントをしたのですけれども、主なものが記載されています。活動に当たっては、熱意がすごくありまして、自主的な活動であるということで、審査委員のほうで評価をさせていただきました。

活動の前提となるものが、千葉県河川海岸アダプトプログラムという制度を使いま

して実施をする計画となっておりました。実施の可否や保険など、アダプトプログラムに引っ張られる関係がありまして、不確定要素があるということで条件付きと、このときはしました。あとは、地域住民や団体への情報発信をすることで、活動そのものへの理解等が広がることを期待しますというコメントを付しました。

条件については、先ほど触れましたけれども、活動の機器の借り受けや保険の加入というものを県のアダプトプログラムを利用してということだったのですけれども、現状、県のアダプトプログラムが協議中ということで、条件については、アダプトプログラムの合意、または、それに代わる活動の許可が確認できた場合のみ補助対象としますということで、団体にもお伝えをして了解をいただいています。

草刈り機等を購入するというような内容の計画だったのですけれども、こちらについては、許可が下りれば、4月以降、購入したものは全て対象とします。逆に、自腹でも活動するというので活動されますが、最終的に年度いっぱい許可が出なかった場合は、自腹になりますということで、全額返納ということで、そこまで御説明をして御了解をいただいています。

現状、7月、8月は暑いので、活動を休業するという事なので、9月以降、県のほうとアダプトプログラムの合意が取れば、活動をまた再開されると思います。

続きまして、2番目です。介護・認知症の家族と歩む会・白井。こちらについては、認知症本人と介護家族の不安・苦悩軽減を目的とした講座やワークショップを行いますということで頂いております。

すみません。先ほどのグリーンレンジャーさんは、交付額満額の7万円となっております。

介護・認知症の家族と歩む会については、交付金額が10万円。

こちらについては、コメントとしましては、認知症に対して、当事者目線で取り組んでおり、着実に活動を継続されることを評価しますということと、団体さんのプレゼンの中で、資料等を見ましても、会員の区分けが分かりづらかった部分がありまして、外部の方にも組織の体制が分かるように体制づくりに努めてくださいというコメントをしました。また、コロナ対策に注意をしつつ、活動の成果や効果を広く周知しながら事業を進めてくださいというコメントをつけました。

続いて、5ページになります。しろいワクワクひろば。こちらについては、多世代交流型、子ども農園&子ども食堂ということで、地域の畑を活用して野菜や芋などの栽培、収穫作業、収穫物を利用した食事会、食材配布等を通じて、地域の子供から高齢者までの交流や親睦を深め、地域福祉の増進、若い世代の子育て応援や高齢者の閉じこもり予防などを図るというような活動ということでした。

交付額については、8万4,000円。

審査時のコメントについては、地域に根ざした多世代多文化型の素晴らしい活動であ

ると評価をしております。また、参加者の内訳など、データを取り、分析を進めることで、周知方法や情報発信の対象の絞り込みなどに生かしてくださいというコメント。また、SNS等での発信、自治会へ声かけ、拠点の拡大等により、参加者の広がりを期待しますとなっております。

しろいワクワクひろばにつきましては、平成31年度に促進型の補助を受けまして、昨年度、発展型の補助を受けまして、今年度、活動発展型の補助金を2年目となっております。補助金としては、3年連続で受けています。本日、この後、成果発表会ということで、去年の活動報告をしていただくことになっております。

続いて最後、白井健康元気村。こちらについては、高齢者を対象とした「健康教室」「終活教室」等を実施するとともに、これらの内容をDVDやブログにより広く市民に公開・広報するというので、交付額が25万円満額となっております。

こちらについては、会員が多く、地域に安定して根付いておりまして、また公園清掃で自主財源を確保している活動のことについても、評価ができるということでコメントをしました。

団体から申請のあったDVDに関する費用については、収録内容が動画ではなく資料データのみということで、DVDである必要性が認められず、また、制作単価が高額なことから、条件付き採択としました。

また、会員、村民だけでなく、広く白井市民が受益できるような取り組みとなるよう期待しますということで、こちらの条件付き採択の条件ですけれども、DVDの費用が非常に高く、また、内容も動画ではなく、ただのデータ収録というお話でしたので、条件を付けまして、DVDについては、①、②への変更を条件とします。変更とできない場合は、DVDに関する費用を補助対象費から除くということで。

条件の一つ目が、DVDの収録内容を資料データではなく講演会を撮影した動画に変更する。2番、資料データの配布について、DVDではなく紙媒体での配布に変える。これについては、カラー印刷費等への変更を認めますということで御説明をしたところ、②のほうの対応で実施するというので、お話を受けております。

最後、6ページですけれども、委員さんの名簿になっておりますが、この名簿の右側です。補助金審査（審査会）というところに丸がついている6名の委員さんで審査をさせていただきました。

事務局からの報告は、以上になります。よろしくお願ひします。

[委員長] ありがとうございます。

時間が押していますけれども、主に審査に関わっていない委員の方々から、何か今回の審査結果ですとか、あるいは、そもそもの事業内容等について、御質問とか、確認したいことがありましたらお願いできればと思いますけれども、いかがでしょうか。

そうしたら、特に限定せず、審査に関わった方からも何か質問があれば。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 念のための確認なのですが、元氣村さんのDVDからカラー印刷費に変わっても、補助金25万円というのは、大丈夫なのでしたっけ。

[事務局] こちらについては、一応、団体の説明にもしてあるのですが、DVDで要求した金額未満の金額であれば大丈夫ということで伝えてあります。

要は、すみません、細かい金額を忘れてしまいましたけれども、DVDで20万かかると言っていれば、その20万の費用のうちで、カラー印刷だとか、委託に出したものが20万以下であれば、それについては。

[委員] 質問の意味が。費用の支給対象額の何パーセントとかって決まっていたような気がしたので。DVDが高かったから、それが紙になると、すごく安くなるのじゃないかなと思っていて。その割合のところの条件というので、25万円が出なくなるのじゃないかなと思ったのですが、そこは大丈夫なのでしょうか。

[事務局] DVDを全部除いた場合は、対象経費が19万4,000円になるのですが、そこに紙の部分が、例えば、5万円で済めば、一応、補助対象の計算式があるので、そこからあふれてしまえば、25万円は、最終的には幾らか返してもらうという精算をする処理になります。

[委員長] よろしいですかね。ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

そうしましたら、時間もありますので、補助金の審査結果については、以上とさせていただきます。

それでは、続いて議事2番目です。この後、実施いたします成果報告会の流れについて、事務局から再度御説明をお願いいたします。

## (2) 白井市市民団体活動支援補助金成果報告会について

[事務局] そうしましたら、資料の3番をお出してください。

これは、団体さんに既にお送りしている資料になりまして、本日のことが書いてございます。

そうしましたら、表面の(1)報告時間ということで、1団体につき報告時間10分、質疑・意見交換時間として15分程度と取らせていただいています。団体さんからスライド、どちらの団体さんもスライドを使うのですが、10分間の報告が終わった後、質問等、もしくは、何かアドバイスとか分からない点とか、いろいろ聞いていただければと思います。

2番の進行ですが、報告の順番は、まず、ハートの会さんが先にやりまして、その後、しろいワクワクひろばが行います。団体さんにもここに入っていて、報告が10分、質疑が15分ですよというのを説明をさせていただくので、冒頭5分間使いまして、その後、25分ずつ行いまして、11時25分に報告会としては終了する予定になって

おります。

報告内容については、2ページ目に裏面に記載のとおりですけれども、団体さんのほうで、これに関することを御報告いただける予定です。最初のハートの会さんは3名出席。しろいワクワクひろばさんについては2名出席ということで、予定をしております。

以上になります。

[委員長] ありがとうございます。何か確認したい点とか、質問はありますでしょうか。よろしいですかね。

補助金の審査は、この前やりまして、今回、成果報告会ですので、審査ではありませんので、温かい目で。どちらかというと、ワクワクひろばさんは、先ほど御報告のあったとおり、発展型で採択されていますけれども、ハートの会さんは、諸事情があって再度申請はしてこられなかったということもありますので、そういった点も踏まえて、ぜひ皆さんからアドバイスを頂ければなと思っております。

特になければ、それでは団体さんにも入っていただきまして、早速ですけれども、成果報告会の準備に入りたいと思いますので。

では、よろしく願いいたします。

### (3) 白井市市民団体活動支援補助金公開成果報告会（前年度採択団体）

[事務局] それでは、昨年度の市民団体活動支援補助金の成果報告会を始めさせていただきます。団体さんに報告いたします。1団体、報告10分、質疑応答、意見交換15分ほどお願いしておりますので、まずは、パワーポイントで説明していただいた後、15分ほど質疑応答をよろしくお願いいたします。25分の時間が終わりましたら、ワクワクひろばさんとハートの会さんに入れ替わっていただいて、それぞれ団体さんの説明を一緒にお聞きいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず最初、ハートの会さんになります。

事業名は、不登校の子を持つ親への支援事業ということで、昨年度、3万3,000円補助金を交付させていただきました。

事業目的としましては、安心して話せる居場所をつくり、学び合い、認め合いながらお互いが成長し、子の自立を目標に多様性を認め合える社会を目指すということで活動をしていただきました。

それでは、活動報告についてお願いいたします。

[発表者] こんにちは。ハートの会の〇〇と言います。隣が、親の会担当の〇〇さん、そして、〇〇さんです。今日はよろしくお願いいたします。

それでは、お手元にいろいろ資料がありますけれども、それを見ていただきながら報告を進めていきます。

[委員長] 座っていただいて大丈夫ですので、どうぞ。

[発表者] よろしいですか。

[事務局] しゃべりやすければ、どちらでも。

[発表者] はい。じゃあ、座ったままで。

まず最初に、事業目的、これをお話ししたい。報告書にもあるのですが、今日は実際にハートの会のほうに参加し、体験を踏まえて、少しお隣にいる〇〇さんのほうにお話ししていただきたいなと思っています。お願いします。

[発表者] よろしく申し上げます。私は不登校の子を持つ母として、お話をさせていただきます。

まず、不登校の子を持つ親から見たハートの会とは、一人で悩みを抱えている中、世間の常識を気にせずに、親の本音を語れて泣ける場所で、また、それが許されて、同じつらい思いを理解してくれる仲間がいる場所です。渦中を過ぎた前へ進んだ親御さんや子供たちの今の話を聞けて、力と希望をもらえる場所でもあります。

次に、ハートの会の活動に参加した親の成長ですが、こうするべき、こうでなければならぬというような画一的な固定観念を見直して、子供それぞれの成長のペースがあること、そして、それを信じて待つことの大切さを知りました。親は、子供の少し後ろで見守り、子供が自分でどうしたいかを定めることの大切さも知りました。これらが大きく感じていることです。

[発表者] ありがとうございます。

では、次に進みます。授業内容についてです。今回の補助金なのですが、リーフレットの作成、それから講演会を開催いたしましたので、そちらのほうに主に使わせていただきました。

まず、リーフレットのお話をします。お手元にあるリーフレットは最新版です。これを作りまして、教育関係機関への配布をいたしました。白井市にあります教育相談室、それから、不登校の子供たちが通うヤングハートの教室。あとは、交流がある場合に持参いたしまして、その方に渡すというようなことで、大変分かりやすいから、渡すだけで内容が分かりますよとお褒めの言葉を頂いたりしています。

教育相談室では義務教育の子供たちが対象なので、高校生からの問い合わせ、これに関しては、ハートの会さんのほうを紹介させていただいてよろしいですかと言われましたので、どうぞ紹介してくださいというような話をしました。

内側のほうのリーフレットなのですが、今回、ここにレンタルハートの紹介をしています。定例会には参加しにくいかなという方がやっぱりいますので、仕事の面、それから、大勢の人の前ではちょっとなという、その人たちのための紹介もしています。左側にありますハートの会の約束というのがあるのですが、これは、私から見ても優れものだなと思っています。

次に、講演会のほうですが、3月27日に開催いたしました。新学期を迎える前にとい

うことです。今回、参加費無料での実施をさせてもらいましたが、それはひとえに、ここの補助金があるということだと思っています。チラシのほうに、本来なら一言、ここで補助金を頂いていますという文も入れなければいけなかったのですけれども、初めてのこと、入れずに終わってしまいました。申し訳ございませんでした。

次の写真なのですけれども、これはリアル会場の様子です。本当にいろいろな方が参加してくれています。今回、オンラインでの参加も呼びかけました。当事者たちがリアル会場に来るということは難しいというのを講師である遠山氏のほうからお話がありまして、では、オンラインでいきましようかということで、オンラインです。会場では28名、オンラインでは52名、80名の参加がありました。無事に終了したことで、私たちはほっとしております。

次、お願いします。次に、事業の実施に当たって問題となったことなのですけれども、どこの団体さんも一緒だと思います。コロナ禍であること、これがものすごく大きいことでした。顔を見て、体温を感じて話をするということが、私たちの会の一番のいいところだったのですけれども、それができなかつたので、レンタルハートのほうは少人数でできますし、それから人流が少ない場所を選べるということで、こちらから出向いてお話しする機会をつくりました。すごくたくさんというわけではないのですけれども、毎月2組、多いときは3組くらい。2組くらいは月にやっていたと思います。

それから、もう一つ、オンライン。オンラインの会議をしたり、それから、オンライン配信ができたこと。私たちはすごく不慣れなのですけれども、これができたことは、これからの活動に大きなプラスになるかなというふうに思っております。なかなかノウハウがないもので、もっと勉強してノウハウがあれば、講演会の参加費を徴収できたのでしょうかけれども、できませんでした。そこはちょっと残念なところです。

次に進みます。成果と課題についてなのですけれども、何よりもハートの会の存在を広く知ってもらうことができました。広報にもお知らせをしておりますし、リーフレットもありますし、あとは、SNSの活用で、講演会を取材してもらって地域の情報誌も使いましたので、いろいろな方に知っていただきました。問い合わせがポツリポツリとございます。先日もありました。緊張しながらの問い合わせだったのですけれども、ぜひよかったらのぞいてくださいということをお声かけができました。あとは、団体さんの研修会で、ぜひお話をしてくださいという依頼がありました。レンタルハートで印西市のほうにあるフリースペース、フリースクールのほうにも、7月にお邪魔をするような予定もございます。

課題なのですけれども、これは、実はすごく大きいことです。これからのハートの会について考える機会になりました。私たちの活動は、誰もが前面に立って、さあ、しゃべりましょう、さあ、誰でも来てくださいとは言っても、渦中にある方に今、私がやっているような、こういう担当をお願いするというのは、今の段階では難しいことなので



すね。この辺を考えていこうじゃないかというので、みんなで考える時間を取りました。結論としては、これからも続けていきたいので、主体的にやってくれる仲間をとというようになっています。

最後に、今のを踏まえて、これからの展望なのですけれども、主体的に活動する仲間を増やしていこうというふうに考えています。実は、私は代表ではないのですけれども、事務局担当なのですが、私と親の会の担当がお二人ここにいることが、私は今日すごくうれしいのです。感謝しております。大体、今までは、私と代表で前に出てお話しをする、こういう機会がほとんどだったのですけれども、今回も、この4月からどうするという話をした中で、手を挙げてくれる人がいて、主体的にやりますという、プチハートというスタッフのグループをつくっているのですけれども、私と代表を含めて6人。みんな立候補というのですか、手を挙げてくれました。これはすごいことなのです。どうお伝えしていいかわからないのですけれども、事情が誰かに伝わるということがもちろんあるのですね。そういうことを考えると、本当にありがたいなというふうに思っています。

ハートの会の定例会は、親の会となりました。私や代表が何かをするのではなくて、隣にいるお二人がこれから担当して、実際に4月から動いてくれています。

それからレンタルハートというのは、意外とニーズがあるのだなということなので、これはどんどん広めていきたいなと思っています。

それから、講演活動と書いてあるのですけれども、ぜひ体験をお話ししてほしいというような依頼がありますので、レンタルハートでもお話ししてくださいということで、実は先日、私と隣の〇〇さんと出向いて行って、私は御挨拶で、要所要所は彼女が答えてくれるというような形を取っております。講演活動に入るのかなというふうに思っています。

それから、応援サポーターの方も声をかけておいております。大人だけではなくて私の教え子、私はヤングハートの指導員をしていたのですけれども、もう30歳を超えた教え子に、ちょっとサポーターで応援してよと言うと、いいですよということなので、親の会に来てもらって、質問があったときにお話をするような。あとは、養護教諭を退職された方がいるので、何かのときには手伝ってくださいと声をかけて、お願いしてあるとか、そんなふうになっています。

最後なのですけれども、運営資金については、頭が痛いところなのですけれども、今年度は会員という言葉をやめまして、応援費。応援してくれる方に、年間ワンコインをお願いするという形で声をかけようかなと思っています。先日の6月の親の会からスタートしたところです。それをもとに新しいリーフレットを作ったり、印刷やら何やらというのはお金がかかることなので、そちらで使わせてもらいたいなというふうに考えています。まだ、もう少し時間がありますか。

[事務局] 10分たちました。

[発表者] すみません。以上が報告です。何かありましたら。

[委員長] 報告ですから、もうちょっと大丈夫ですよ。いいですか。

[事務局] よければ、続けて大丈夫です。

[発表者] もう少ししゃべっていいですか。

[委員長] しゃべっていただいても、別に大丈夫です。審査じゃないので。

[発表者] ということで、本当に今までやってきたことが間違いではなかったというふうに思っているのですけれども、これからハートの会を続けていくための工夫というのですかね。そこのところが一番大きいかなというところですよ。本当に、そこはみんな、2月、3月、講演会の前あたりから話し合ってきました、そういうような結論のほうになりました。

主体的に、例えば、楽しいこともやっていこうという計画はあるのです。私がやりたいのは、栗の時期になったら、栗でお菓子を作りたいなと思っているのです。そういうときに、皆さん、栗のお菓子作りませんかというような。だから、ハートの会のお母さんたちだけではなく、サポーターの方が来たり、ロコミで別の人 come たりと。早くコロナが収束してくれればいいなとは思っているのですけれども、そんなわくわく楽しいようなことも実は考えています。折り紙を折ってみようとか、そんなところですね。

以上です。ありがとうございました。

[委員長] どうもありがとうございました。

そうしましたら、残りの時間で少し委員から、質問とか、アドバイスというか、幾つかやり取りさせていただこうと思います。

どなたかある方は、挙手してください。

〇〇さん。マイクをお願いします。

[委員] 千葉大学の〇〇と申します。本当に丁寧な発表をありがとうございました。

コロナ禍で、居場所というのはとても重要で、集う機会をずっとされてきたという、これだけでもすごいなというふうに思いました。

お伺いしたいのは、コロナ禍で新しい工夫として、オンラインでの参加とか、それから、レンタルハートという取り組みを始められて、これは今コロナでやむにやまれずという形でされたのだと思うのですけれども、それによって、新しい参加者が生まれたとか、新しいニーズが見えてきたとか、気づいたとか、やり方を変えたことによって見えてきたこととか、今後につながりそうな発見とか、もしありましたら教えてください。

[発表者] 多くの方が、わっと押し寄せるわけではないのですけれども、レンタルハートに関しては、私が調整役といいますか。前の写真に、南山ベースとリーフレットにも載っていると思うのですけれども、その場所でやるのですが。それを使うと、親御さんだけではなくて、もともとハートの会の親の会に参加している方が、親子で話をする

とバトルになっちゃうので、子供を連れていってもいいですかというような。親の会のほうに子供を連れてくることはないのですけれども、レンタルハートのほうでお子さんを連れてくるという。いいですよというお話をすると、申し訳ないほど私が勉強になるような場面が、目の前に実は起こるのですね。こんなふうに信頼し合っているのだなという。実は、1組ではなくて、お子さんと一緒にというレンタルハートの申し込みが何件かありまして。

そこで改めて、親の支援なのですけれども、こうやって目の前に親子で話をすると、それぞれに感謝の言葉が出たりして、何気なく言うので、ちょっと拾わせてもらって、これって、すごくうれしい話だったね。これ、お母さんにこうしてもらおうと、うれしいよねなんていうのをちょっと拾わせてもらおうと、うんと言って。お母さんが、ぱっといい顔になられる。レンタルハートに関しては、件数が増えたではなくて、その中身がとても充実したというような事例が、今。〇〇さんのところの娘さんが来てくれたりしています。それも違ってきました。

オンラインは、まだまだ勉強中で、これも今、勉強しているところなのですけれども。でも、勉強するきっかけになって、よかったなと思います。

[委員] ありがとうございます。レンタルハートって親子で参加する場所なのですね。

[発表者] 親子でもいいのです。

[委員] 親子でも参加できるようになったという。

[事務局] 自由にセッティングができるというか、それがよかったなと思います。

[委員] 分かりました。ありがとうございます。

[委員長] ほかの方はどうでしょうか。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 私は質問ではないのですけれども、考えてみて、今日、母親ですよ、来ているのね。

[発表者] そうです。

[委員] 私は、別に子供さんが不登校じゃなかったのだけれども、もしなったら、父親の立場だったら、どうしたのかなと考えてしまったのです。それで多分、私も今は農業をしていますけれども、地方公務員をしていましたので、そのときだったら母親に、おまえの育て方が悪いからと言っちゃうのじゃねえかなとか、いろいろ考えました。

それと今日、来てくださっている方は、実際にそういう子を持っている人を表に出て、これは大したことだと思います。だから、これは父親の協力も必要なのかななんて、今になって考えてみたのです。

[発表者] ありがたい話ですね。

[委員] いろいろ褒めたいことはいっぱいあるのですけれども、そんなことを言うと失礼かなとも思いますし。私はこれで終わります。

[委員長] ありがとうございます。何かコメントありますか。

[発表者] まず、やっぱり不登校の子を持つと、一番子供と接するのは母親で、もちろん父親も子育てには参加はしてくれませんが、主としては母親。一番最初に母親が感じることは、自分の育て方が駄目だったのか、自分を責めるのですね。父親というのは、やはりまたちょっと母親との少しラインが間にどうしても入ってしまうのですね。お仕事をし、毎日子供と接するわけではないので。

でも、うちの場合は、不登校の子を持った経験で、それが逆に考え方、最初は全く違いました。お父さんは子供の将来を一番に心配して、我が子はどうなってしまう。もちろん母親もそうなのですけれども、父親は強く感じるのですね。世の中に出ていけるのか。でも、そのことを子供が不登校にならなかつたら、きっと考えることもなかつたし、同じように話し合ったりして、気持ちを一緒にすることもできなかつたと思います。うちもなかなかそれには時間がかかりましたが、今はとても協力的で、親子関係はとても良好です。ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。実体験に基づいた貴重なお話だと思います。

ほかの方はいかがでしょうか。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] とても素晴らしい活動だと思います。〇〇と申します。市民のほうから出させていただいております。

ちょうど私、1か月前に娘が家出というか、しまして、本当に1か月、とても不登校だったのですね。そのときにいろいろ思ったことがありまして、今リアルタイムで知ったのですけれども、こういったことの切り替えの時期というか分からないですけれども、どうやってここに行き着くことができるのだろうかという。その1か月じゃ全然知り得ない、出会えなかつたなと思って。

そのときの私の気持ちのやり場というか、本当に先ほどおっしゃっていたとおりに、自分を責めちゃうという、そういうことになってしまうので。今は行っているのですけれども。

[発表者] とても時間がかかりましたから、ここに座ってくれているだけでも、かなりの年月が流れております。私たちは本当に仲間なので、何でもしゃべれるのですけれども、そういうふうに、私、昨日たまたま共通の知人がいることが分かつた方とお話しする機会がありまして、私たちの会を応援してくれているという話をちょっとしたのです。あまり外でそういう話をすることはないのですけれども。そうしたら、私も実は不登校の子を持つ経験者だというお話をされました。今は仕事に就いたというお話をしていましたけれども、本当にしゃべる場所、もやもやした気持ち、自分だけを責めている、その自分ではなくて、そんなことないよと。不登校はいけないことで、学校に行っていることがいいことだという、そういうくくり方を私たちはしていないのですね。行って

も行かなくても、生きていることが一番いいし、笑顔が見えたらいいねという話をしている。でも、そういう場所が、なかなかその当時はなかったという話をされたので、今日の報告会の応援かなと思いながら、お話ししたのですけれども。

うちの会は、そのときだけでいいのです。一番つらいときだけ来て、お話をして、さあ、2回目から、今日は来ますかという電話はしないのですね。先日も新しい方が来たのですけれども、こちらからは電話はしませんので、必要なときにウェルカム。どうぞ来て下さいというふうに。分かりました。だから、もしそういうつらい時期があったときに、そのときだけいらしてお話をするというのも、うちの会は本当にオーケーなのです。

[委員] これからも、そういう方がいたらというか、私は、朝に見守りで立っているのですけれども、朝、お子さんとお母さんが歩いていて、お子さんが途中で行きたくないというのを目の当たりにしているので、今後はそういった会があるよということをお知らせできるのですけれども、知るタイミングがなかったなと私のときに思ったもので、告知というか、もうちょっと広く周知できるといいかなというところを思いました。すみません。ありがとうございました。

[発表者] 広報に載せたり、新聞やら何やら。本当はホームページというのを、今、かじってはいるのですけれども、もっとかじりたいと思っています。

[委員長] ありがとうございます。

どうぞ。

[委員] 市内のPTA連絡協議会の会長をしております桜台小学校の〇〇と申します。

大変頼もしいといえますか、PTAとしては、どんどん活動をサポートさせていただければと思っているのですが。今、〇〇委員のお話がありましたけれども、PTAの会長会の中で、こういった活動をされているハートの会さんというのがあるよというような話をさせていただいてもよろしいでしょうか。

[発表者] ぜひお願いします。必要な方に届けばいいと思っていますので、100回しゃべって、1人に届けばいいと思うので、お願いいたします。

[委員] もしかしたら、会長会の折に来ていただいて、PRということもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

[発表者] はい。今日、代表がいないのですけれども、うちの代表は大丈夫、ばっちりです。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。

すみません。せっかく議論が盛り上がってきているところではあるのですけれども、ぼちぼちお時間ということなので。

IT関係とかは、ぜひ、まちサポさんのサポートとか、あと、うちも使っているので

すけれども、P e a t i xというサービスとかを使うと、コンビニエンスストアで参加費の支払いができたとか。そういう、なかなかITには、便利なツールもいろいろ出ていますので、そんなのを使いながら、ぜひ頑張ってくださいと思います。

あと、お話がすごくよかったですけれども、写真とかは大丈夫なのですかね。当事者の方なので。

[発表者]そこは、うちの会での練習なのですけれども、はっきりと私は「ノー」とか、私は「イエス」ということを言うようになっておりますので、私は「イエス」です。

[発表者]私も「イエス」です。

[委員長]大丈夫ですね。そういうことで、ありがとうございます。本当に貴重なお話、どうもありがとうございました。

[事務局]ちょっと入替えしていただいて。

[団体入れ替え]

[事務局]続きまして、しろいワクワクひろばさんになります。しろいワクワクひろばさんは、多世代交流型、子ども農園・子ども食堂事業ということで実施をしていただきました。

昨年度、補助金の額が16万9,000円で交付決定しましたがけれども、最終的に精算させていただいて、12万8,000円の補助金となっております。

事業の目的としましては、農作業や食事会、食材の配布等を通じて、地域の子供から高齢者までの交流や親睦を深め、福祉の推進を図るということで実施していただきました。

それでは、報告のほうお願いいたします。

[発表者]こんにちは。しろいワクワクひろばの事務局担当の〇〇と申します。本日はよろしくお願いいたします。隣にいますのは、スタッフの会計担当の〇〇になります。よろしくお願いいたします。では、着座にて御説明させていただきます。

令和2年度のしろいワクワクひろば、次世代交流型、子ども農園・子ども食堂事業について、御報告させていただきます。私たちは、地域の畑を活用して野菜やお芋などの栽培、収穫作業、収穫物を利用した食品の配布、食事会、花植え作業などを通じて、地域のお子さんから高齢者の方までの交流、親睦を深めて、地域福祉の増進を図っています。

活動地域なのですが、子ども農園については、高齢者施設白井の家という第一小学校区にある高齢者の施設の近くにある畑で行っています。無料でお借りしている畑になります。

子ども食堂については、昨年度、感染症拡大の影響で、参加者同士の会食は少し控えまして、障害者施設ぼけっとさんと、あと、第2ぼけっとさんの調理室をお借りして作ったお弁当や、社会福祉協議会さんから御寄附いただいたお米やお菓子、それから畑で

収穫したお芋や大根などの野菜の配布を行いました。

活動内容ですが、昨年度、コロナ禍によって、毎月の実施はできない時期もありましたが、ほぼ月に1回、土日または祝日の午前11時頃から正午頃まで、畑ですとか、ひだまり館、それから、第2ぽけっとさんの畑で作業を行いまして、その後、食材やお菓子、お弁当、収穫した野菜などを配布いたしました。

子ども農園・子ども食堂という名称で事業を実施しておりますが、対象は市内にお住まいのお子さんから高齢者の方まで、様々な年代の方に御参加いただきました。

こちらは、令和2年度の活動状況になります。7月のジャガイモ掘りや11月のサツマイモ掘り、12月のサトイモ掘りには、親子さんやおじいちゃんとお孫さん、または御近所同士など、たくさんの方々の参加がありました。

こちらは、令和2年度の収支の状況です。補助金の対象となっている令和2年の9月から3月までの収支の状況です。収入が16万453円、支出が16万453円です。そのうち、約8割の12万8,000円を市民団体活動支援補助金を活用させていただきました。多くは、野菜や花の苗の購入費、検便検査料、衛生用品やキッチン用品などの購入に充てさせていただきました。ありがとうございます。

昨年度の活動状況について、撮影したものがございます。こちらは、昨年7月のジャガイモ掘りの場面になります。こちらは、昨年10月の落花生掘りの場面です。第2ぽけっとさんの畑に植えた落花生を小学生、中学生の御兄弟が収穫しているところになります。こちらは、10月に白井コミュニティセンターのお花植えを一緒にしているところになります。近くの中学生在がお友達同士で参加してくれました。こちらは、12月のサトイモ掘り、大根抜き、お花植えの場面です。こちらは、12月のサトイモ掘りのときに、市の保健師さんの御指導のもと、参加者の皆さんで、なし坊体操をしているところになります。こちらは、今年の3月のジャガイモ植えの様子です。このときには、高校生や大学生、若い社会人のボランティアの皆さんがたくさん参加してくださいました。若いボランティアさんたちは、今年度も活動に継続して参加してくださいっていて、子供たちや高齢者のボランティアさんとの交流を深めているところとなっています。こちらは、今年の4月のサトイモ植えの際のお弁当になります。昨年度もお弁当の配布はしたのですが、写真がなくて、今年度のものを参考に掲載させていただいております。

このような活動を始めたきっかけですが、少子高齢化や核家族化などによる地域の様々な課題があるというふう感じたからです。第一小学校区は在来地区ということで、3世代の同居世帯も少なくないのですが、一方で、外国籍の方も含めた若い子育て世帯や独り親世帯の方たちが、近くに親族や知人がなくて地域から孤立しがちになったり、育児の負担から虐待に至ってしまうような場合もあります。また、独り暮らしの御高齢者や高齢者の御夫婦のみの世帯も増えてきていて、高齢者の方は、年ごとに心身の機能低下とともに家に閉じこもりがちとなって、孤独死や老老介護などの問題が起こってく

る可能性があります。

私たちは事業を通じて、地域で生活する様々な年代の人たち、様々な国の人たちが、お互いに知り合って交流を深めて、そのような問題を少しでも減らしていければと考えております。私たちの事業は、そのための関わりのきっかけづくりであって、定期的で継続的な活動を通じた交流によって、子供たちや若者の健やかな育ちを見守り、若い子育て世代を応援し、また、高齢者の閉じこもり予防を図っていきたいというふうに思っております。地域の様々な人との関わりを通じて、お子さんたちには自信や意欲を、若いパパ、ママには、一人で頑張りすぎないように子育ての孤立防止を、高齢者の方には、子供たちや若者との触れ合いで元気や生きがいを、そして活動している会員のママたちは、若さと健康を保っていけるよう事業を実施してきたところです。

こちらは、令和3年度の事業予定で、毎月1回の子ども農園と子ども食堂を実施していく予定です。

会員の構成と協力体制については、昨年度と同様に、会員を中心として、市役所や自治会さん、社会福祉協議会さん、障害者施設ぽけっとさん、地域の方々やボランティアさんなど、たくさんの方々の御理解、御協力を得て、楽しみながら実施してきましたので、今年度も引き続き継続していきたいと思っております。

私たちの事業は、手前みそなのですけれども、白井市が目指している将来像、ときめきとみどりあふれる快活都市へを実現するための三つのプロジェクト、若い世代の定住プロジェクト、みどり活用プロジェクト、拠点想像プロジェクトのいずれにも該当するのではないかなというふうに考えております。

以上、昨年度の報告になります。ありがとうございました。

[委員長] どうもありがとうございました。

それでは引き続き、質問だとか、アドバイスというのを委員のほうからさせていただきたいと思います。何かある方、いかがでしょうか。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 桜台センターの〇〇と申します。いい発表をありがとうございます。

今、発表された中でお伺いしたいのが、最後におっしゃった外国籍につながるお子さんたち。参加者の中に、そういう方がいらっしゃるのかというのが一つと、協力体制の中にあつた障害者施設ぽけっとさん。ぽけっとさんの方々も参加されたのかなというのをお伺いしたいです。お願いします。

[発表者] ありがとうございます。参加者の方の中には、外国籍の方もいらっしゃいます。小学生とお母さんという親子さんで参加してくださった方とか、あと、中学生のお子さんも、中国籍の方ですとか、スリランカ国籍の方などが御参加いただいているところです。

それから、障害者施設ぽけっとさんの利用者さんの中にも、御都合が合えば御参加い



ただいているところです。昨年度の落花生掘りのときなどには、障害者施設の畑だったので、近くだったということで御参加いただきました。

[委員長] よろしいですか。

[委員] はい。ありがとうございました。

[委員長] ほかの方はどうでしょう。

どうぞ、〇〇さん。

[委員] 自治連合会の〇〇でございます。

市内に自治会が90くらいあるのですけれども、このイベントは、私も個人的に入りたいと思うくらいいい内容だと思うのですけれども。場所は、決まった場所にあるのですか。というのは、先ほどもありましたように、みんなが参加できるようにするには、独り老人なども最近、多いのですよね。それで、外へ出るという促進させるには、いいあれだと思うのですが、高齢者の独り住まいの人は、ほとんど車を持っていないし、歩くにも遠いところまで行けないと。

例えば、先ほど12カ月のスケジュールがありましたけれども、それはそれでいいのですけれども。例えば、白井市の東西南北を四つくらいのブロックに分けて、今月は東ブロックとか、何かそういうふうに歩いて行けるような場所に設定していただくと、非常に参加しやすいのじゃないかと。御老人も、それから、お子さんを抱えるお母さんたちとか。当然それはお金がかかるし、運営する人たちのサポートは大変だと思うのですけれども、そういう視点を探っていただいて、拡大する方策を考えていただければありがたいかなと思っております。

[委員長] ありがとうございます。

いかがですか、何か。

[発表者] 近くにそういった場所があるといいなという委員さんの御意見、確かにそうだなと思います。

ただ、今、会員のみんなは、仕事を持ちながら活動をしている状況もありまして。将来的には、そんなふうに各地区に、そういう活動の拠点が増やしていけるといいのかなとは考えております。

昨年度末、3月のジャガイモ掘りから、高校生とか大学生、それから若い社会人のボランティアさんたちが参加してくださるようになって、そういった方たちがどんどん増えて組織体制がもっと整っていけば、そういった拡大ということも可能になってくるのかなというふうに思いますので、そういうふうな視野も持って、今後も活動を続けていけたらなと思います。ありがとうございます。

[委員] もう1点。それと、この活動をあらかじめどうやって住民に知らせるか、来てもらうか。広報が大事だと思うのですよね。たまたま私は、今、私のところは364軒の住民がいて、広報紙を毎月1日に出しているのです。自治会として自治会コーナーがあ

りまして、こういう情報を頂ければ、例えば、私のところの桜台地区のそばでやるのであれば、皆さんに声かけをすると、広報で伝えると。そういうふうに、各自治会の広報体制をうまく利用して、多くの参加者を呼びかけて、それで、少しでもボランティア的な会費というか、そういうことで収入を増やすと。いろいろな人の参加を心がけるように、広報体制も、うまくみんなの自治会の広報体制を利用されるようなことを考えたら、応じてくれるところは多いと思います。大変健康的でいいことだと思います。以上です。

[委員長] ありがとうございます。

どうぞ。

[発表者] 貴重な御意見をありがとうございます。

実際に今、第一小学校区で無償の土地をお借りして、それで苗植えから野菜の成長を月1回見ながら、それで収穫に向けてということで、それを市内の各地域に広げるというのは、なかなか一遍には難しいかと思えます。でも、これからの事業をやっていく上では、大事だと思っております。

この前、同じ市内の子ども食堂をやっている方々との意見交換会がありまして、やっぱり畑を作っているというのは、ほかの地域ではあまりなかったのですよね。1回やったけれども、どこでできた野菜を貯蔵しておくだとか、いろいろな問題が出て、なかなかみんな、ポシャっちゃったなんていう話もあったので。そういうのも確認しながら、みんな、市内とかの子ども食堂の方々とも協力をしながらやっていけたらなというのは、この前の意見交換会の中では出ているので、それも考えながら、一遍にはできないと思うのですが、進めていきたいというふうには思っております。

[委員長] ありがとうございます。

ほかの方はどうでしょうか。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 千葉大学の〇〇と申します。

今の〇〇委員から出た最初のところは、公益性に関わるころだと思っておりますけれども。公益性、多分いろいろな方向性があるかなと思っております。一つは行政のように、要は大きな組織みたいに、各市を網羅して活動するというのも一つだと思っておりますけれども、もう一つは、〇〇委員がおっしゃられた2点目に関係するところで、もう一つの方角は、ワクワクさんの強みは、学区に根ざしているというか、そこでされているというのが強みかなと思っております。でも、それを広報で、何かワクワクさんの活動を見て、自分ところでもやってみたいとか、そういう人たちが出てくるような。そういう形で、ほかの人の目に触れるような発信というのを、ぜひしていただけないかなというふうに思っています。

参加者自体がエリア限定というのは、あり得る方向性なので、そこは団体さんの考えかなと思っておりますけれども。すごくダイバーシティとか、多世代とか意識されて、実際

にいろいろな団体を巻き込んでいращやるので、その在り方というのは、ほかのモデルになるのかなというふうに思って伺っていました。

一つ伺いたいのが、そういう形で、参加者もいろいろな人たちを巻き込んでいくというところで、今のワクワクさんのフェーズ、段階というのは、新しい人たちが今、集まってきているという感じなのですか。それとも、大体集まってきて固定化しているの、また広げなくちゃという感じなのですか。そこら辺って、今の参加者の状況ってどんな感じなのでしょう。

[発表者] ありがとうございます。活動に参加している方ですかね。利用者というのか。

[委員] 利用者さんで、畑にいращやる方。

[発表者] 畑にいращやる方は、固定していращやる方もあれば、今月、ジャガイモ掘りを予定しているのですが、各児童館のほうにチラシを配布させていただいてお知らせをしたところ、初めて今回参加するという親子さんなどもいращやいますので、ちょっとずつ増えていたり。あとは、継続してリピートで参加している方もいращやるというような状況です。

[委員] 分かりました。ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。

ほかの方いかがでしょうか。なければ、私からも。

非常に、また審査のときも発表させていただいて、何回も来ていただいて恐縮なのですが、ありがとうございます。

本当に委員からも御指摘のあったとおり、歩みを、それだけ皆さん期待が大きいということなので、ただ、フィールドがあつての畑とか現場があつての活動だと思しますので、そこは難しいところで。皆さんが主体となるのは、その今の拠点だけれども、こういった取り組みがほかの市内の各地にも、東西南北で各1か所くらい、皆さんがサポートしつつ、自発的にその現場の地域の方が立ち上げていただけるといいかなと思いますし。

例えば、市に期待される役割は、そういう農地の貸し借りという、いろいろ制約もあつたりしますので、そういうのを市のほうで仲介してあげるとか、農地バンクとか、いろいろ取り組みもあると思いますので。

先ほど、子ども食堂の意見交換会もあつたということで、私も全国的に見ても、食農教育というのですかね。どこかから買って来た食材で作って終わりというのじゃなくて、自分たちが育てた作物のありがたみ、大変さとかを感じながら子供たちも作るというのは、非常に食育にもつながるいいことだと思いますので、頑張っていたきたいなと思いつつ。

さらに、ハードルというかアイデアを広げていくと、私も実は、佐倉市のほうで似た

ような取り組みをやっていたので。例えば、遊びというのですかね。いわゆる冒険遊び場とか、プレイパークといったような。せっかく親子で子供たちも来ているのであれば、遊びのたき火をしてみるとか、既にやっているかもしれないですけども、遊びの要素を入れてみるとか。

あとは、自然体験とか。それこそ白井だと、環境塾さんとかとコラボして、そういうのをやってみるとか。非常にフィールドが一つあって、地域に根ざしていると、いろいろなこともできると思いますので。白井市の補助金を引き続き活用していただいてもいいと思いますし、もう普通の民間助成金を狙えるレベルだと思いますので、様々な民間の助成金というのが、まちサポに行っていたかと、何とか財団とかが出している子どもゆめ基金とか、政府系のものから様々な財団が応援してくださっているのです、そんなのもぼちぼち考えてもいいのかなと思いました。

ほかの方はどうでしょうか。話している間に。よろしいですか。

そうしたら、ちょうどお時間になりましたので、これにてワクワクさんの御説明は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

せっくなので、この後、大した議事がないので残っておいていただいて、後で先ほどの名刺交換とかをしていただければと思います。

[事務局] よろしければ、団体さんはそのままお待ちいただいてもいいですか。あと、事務連絡だけになりますので。すみません。

それでは、成果報告会ありがとうございました。お疲れさまでした。

#### (4) 今後の委員会予定について

最後、議事4番目です。今後の委員会予定についてということで、次回、第4回の市民活動推進委員会は、まだ日程のほうは確定はしていませんのでけれども、11月前後に予定をいたします。なるべく一月くらい前には開催通知のほうをお送りしまして、皆様方には、日程調整のほうをお願いしたいと思います。

また、この後、会議録を作成しまして、皆様方に発言の間違い等ないか確認をいたしますので、その際には、御協力をお願いいたします。

特に質問等なければ、事務局としてはおしまいなのですが、何かございますか。

特にないようですので、そうしましたら、次回11月前後、通知のほうをお送りしますので、御参加をよろしく願いいたします。

以上をもちまして、第3回白井市市民活動推進委員会を終了いたします。